

平成30年度 温室効果ガス排出量の公表について

1. 市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量

【市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量】

15, 163 t-CO₂ (平成30年度実績)

【内訳】

①温室効果ガスの種類別排出量

温室効果ガスの種類	単位	基準年度 (平成28年度)	平成30年度
二酸化炭素(CO ₂)	kg-CO ₂ 換算	13,940,473	14,826,922
メタン(CH ₄)	kg-CO ₂ 換算	32,777	15,160
一酸化二窒素(N ₂ O)	kg-CO ₂ 換算	319,980	318,370
フロン類(HFC)	kg-CO ₂ 換算	2,516	2,399
温室効果ガスの合計	kg-CO ₂ 換算	14,295,745	15,162,851

②部門別の温室効果ガス排出量

		平成28年度 合計(kg-CO ₂)	平成30年度 合計(kg-CO ₂)
1	市長部局 (環境部、上下水道部除く)	1,001,035	1,078,211
2	教育委員会部局	883,187	705,453
3	環境部	11,603,276	12,696,116
4	上下水道部	808,246	683,071
	合計排出量(kg-CO ₂)	14,295,745	15,162,851
	合計排出量(t-CO ₂)	14,296	15,163

※端数処理により、合計が一致しないことがあります。

2. 削減目標の達成度

【 削減目標 】

温室効果ガスの排出量を令和4年度(2022年度)までに、

3%削減する。【平成28年度比(2016年度比)】

	基準年度	実施期間				
	平成28年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
t-CO2	7,307	7,658				
平成28年度比増減量		+351				
		4.8%増加				
						目 標
						7,088
						-219
						3%削減

※計画に基づき、一般廃棄物の焼却等に伴う温室効果ガス排出量(平成28年度:6,989t-CO2、平成30年度:7,505t-CO2)については、対象外とします。

【平成30年度の温室効果ガス排出量】

①市の事業活動全体に伴う温室効果ガス排出量:15,163t-CO2

②一般廃棄物の焼却等の温室効果ガス排出量 : 7,505t-CO2

$$\text{①}-\text{②}=15,163-7,505=7,658\text{t-CO2}$$

○温室効果ガス排出量増加の理由

平成28年度と比較して、平成30年度の温室効果ガス排出量が増加した主な理由として、電気使用量と灯油使用量の増加が考えられる。

もやせるごみの中に不適物が混入していると、焼却処理機能が低下する現象(シタリング)が発生し、シタリングにより焼却処理を一時停止したときは、発電量が低下し、電気使用量が増加する。また、焼却を一時停止したときは、焼却炉の温度を保持するために灯油を使用する必要があるため、灯油使用量が増加する。

シタリングが発生しないよう、ごみの分別に関する啓発を徹底するとともに、搬入ごみの展開検査を随時実施していく。